

第 1 回検討委員会

令和 7 年 6 月 10 日

資料Ⅱ

県立高校の将来ビジョン検討委員会

説明資料

鹿児島県教育庁高校教育課

説明資料

1 関係法令等

● 目的（第50条）

高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。

● 目標（第51条）

- 1 義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。
- 2 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。
- 3 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。

● 全日制・定時制・通信制（第4条，第53条，第54条）

全日制：通常の課程

定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程

通信制：通信による教育を行う課程

公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律

● 公立高校の適正配置及び規模（第4条）

都道府県は、高等学校の教育の普及及び機会均等を図るため、その区域内の公立の高等学校の配置及び規模の適正化に努めなければならない。この場合において、都道府県は、その区域内の私立の高等学校並びに公立及び私立の中等教育学校の配置状況を十分に考慮しなければならない。

● 学級編成の標準（第6条）

公立高等学校の全日制の課程又は定時制の課程における一学級の生徒の数は、40人を標準とする。ただし、やむを得ない事情がある場合及び高等学校を設置する都道府県又は市町村の教育委員会が当該都道府県又は市町村における生徒の実態を考慮して特に必要があると認める場合については、この限りでない。

※ 条文は一部省略

● 学科の種類（第5条，第6条）

1 普通教育を主とする学科

普通科その他普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科

2 専門教育を主とする学科

- | | | |
|--|-----------------|---------------|
| (1) 農業に関する学科 | (2) 工業に関する学科 | (3) 商業に関する学科 |
| (4) 水産に関する学科 | (5) 家庭に関する学科 | (6) 看護に関する学科 |
| (7) 情報に関する学科 | (8) 福祉に関する学科 | (9) 理数に関する学科 |
| (10) 体育に関する学科 | (11) 音楽に関する学科 | (12) 美術に関する学科 |
| (13) 外国語に関する学科 | (14) 国際関係に関する学科 | |
| (15) その他専門教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科 | | |

3 普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科 総合学科

※ 条文は一部省略

● 全日制普通科への入学（第3条）

- 1 全日制の課程のうち普通科へ入学（転入学及び編入学を含む。）しようとする者は、その保護者（親権者又は後見人をいう。）の住所地の属する学区内の高等学校に志願しなければならない。
- 2 前項の規定にかかわらず、所属学区外の高等学校へ入学しようとする者又は次項第2号に規定する者が、次の各号のいずれかに該当する高等学校の全日制の課程のうち普通科へ入学しようとする場合は、当該各号に該当する高等学校に志願することができる。
 - (1) 当該年度の全日制の課程の募集定員が120人を超えない高等学校（次号に規定する高等学校を除く。）
 - (2) 熊毛学区及び大島学区内の高等学校

● 一定枠による全日制普通科への入学（第3条の2）

全日制の課程のうち普通科を置く高等学校（前条第2項第1号又は第2号の規定に該当する高等学校を除く。）の校長は、当該高等学校の募集定員の100分の5から100分の10までの範囲内で所属学区等が当該高等学校の属する学区以外の学区である志願者について入学を許可できる数をあらかじめ定め、県教育委員会に報告するものとする。

教育振興基本計画とは

- ・教育基本法の規定に基づき、本県の実情に応じた教育振興のための施策について定めた基本的な計画
- ・これまでの計画による取組の成果と課題等を踏まえ、令和6年度から令和10年度までの5年間で取り組む施策を体系化

夢や希望を実現し ともに未来を創る鹿児島の人づくり

簡易版

☆みなさんを応援するために
次のことに取り組めます☆

- いつの時代でも大切な豊かな心と健やかな体を育む教育に取り組めます。
- 自分の良さが分かり、可能性を信じて、いろいろな人と協力しながら困難を乗り越えていく力を育む教育に取り組めます。
- 一人一人が安心して楽しく過ごすことができる環境づくりに取り組めます。
- 学校・家庭・地域などが協力して、子供たちの力を伸ばしていく取組を進めます。
- 伝統や文化を大切に、ふるさと鹿児島に誇りをもてる教育に取り組めます。
- ICTを活用した学びを進めます。

第4期 鹿児島県教育振興基本計画
(令和6年度から令和10年度まで)

ふるさと鹿児島で学んでいるみなさんが、将来、生き生きと活躍するために、充実した楽しい学校生活を送ることを応援する願いや取組をまとめました！

《こんな願いを込めました》

- ☆ 夢や希望をもち、その実現に向け挑戦し続けてほしい
- ☆ 友達と協力し、よりよい未来を切りひらいてほしい
- ☆ ふるさとである鹿児島に誇りをもってほしい



2023かごしま総文マスコットキャラクター「かごまる」

これからの施策の方向性

【公立高等学校の活性化】

- 生徒の学力向上，学校の特性を生かした教育活動の充実，学校運営の改善，教職員の資質向上等を推進し，学校の活性化を図ります。
- 学習指導要領や高大接続改革の趣旨を踏まえた指導・評価の工夫・改善を図ります。
- 高等学校の活力や専門性，教育水準の維持向上を図り，地域に信頼され，魅力ある学校にするため，高等学校の在り方について県全体の高校教育振興の視点から検討します。

【へき地・小規模校教育の振興】

- ウェルビーイングの向上を図るために，へき地・小規模校ならではのよさを積極的に生かした特色ある教育活動を推進するとともに，オンライン等のＩＣＴ活用により，教育環境を補うような取組を進めます。

【「学びのセーフティネット」の充実】

- 家庭の経済状況や地理的条件等に関わらず，安心して教育を受けられるような環境づくりを図ります。

説明資料

2 県立高校の現状

県内高校の学校数 《令和6年度》

(出典) 文部科学省「学校基本調査」

(全日制・定時制) (校)

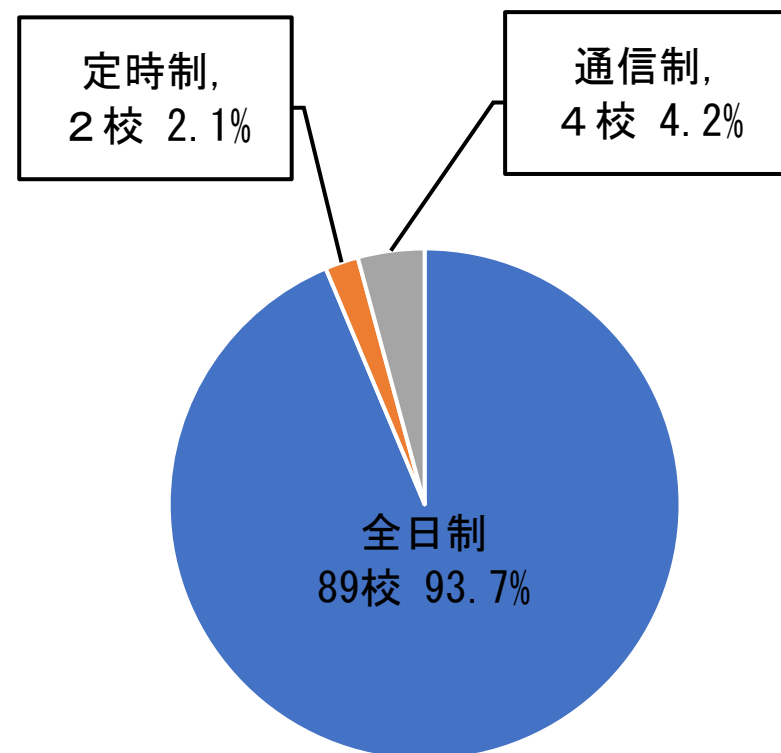
	県立	市立	私立	総数
全日制	59	7	21	87
定時制	0	0	0	0
全日制・定時制 併設 ※1	2	0	0	2
総計	61	7	21	89

※1 : 開陽, 奄美

(通信制) (校)

県立 ※2	市立	私立	総数
1	0	3	4

※2 : 開陽



※ 一つの学校に課程が併置されている場合は、それぞれの課程について、重複して計上



■

県内高校の設置状況【鹿児島学区①】《令和7年度》

市町名	NO	学校名 (○：市立)	学級数	普通科										総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
・県内公立唯一の単位制 ・通信制も併設 鹿児島市	1	鶴丸	8	8										
	2	甲南	8	8										
	3	鹿児島中央	8	8										
	4	錦江湾	6	4									2	
	5	武岡台	8	6									2	
	6	開陽	4	3								1		
		開陽（定時制）	2	1			1							
	7	明桜館	5				2						3	
	8	松陽	8	6									2	
	9	鹿児島東	2	2										
	10	鹿児島工業	9			9								
	11	鹿児島南	8	4			3						1	
	12	鹿児島玉龍○	6	6										
	13	鹿児島商業○	7				6						1	
	14	鹿児島女子○	8				4		4					

県内高校の設置状況【鹿児島学区②】 《令和7年度》

市町名	NO	学校名	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
日置市	15	吹上	3			2	1							
	16	伊集院	6	6										
いちき串木野市	17	市来農芸	3		3									
	18	串木野	2	2										

市町名	NO	学校名 (私立)	学級数	普通科	専門学科										総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	他	その	
鹿児島市	①	池田●		●											
	②	樟南●		●		●	●								
	③	鹿児島実業●		●									●	●	
	④	鹿児島●		●			●						●		
	⑤	鹿児島修学館●		●											
	⑥	ラ・サール●		●											
	⑦	鹿児島情報●		●		●	●				●		●		
	⑧	鹿児島純心●		●											
	⑨	志學館●		●											
日置市	⑩	鹿児島城西●		●			●		●			●	●		
	⑪	鹿児島育英館●		●											
いちき串木野市	⑫	神村学園●		●					●	●			●		

県内高校の設置状況【南薩学区】《令和7年度》

市町名	NO	学校名 (○：市立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
指宿市	19	指宿	3	3										
	20	山川	2		1								1	
	21	指宿商業○	5				5							
枕崎市	22	枕崎	2											2
	23	鹿児島水産	3					3						
南さつま市	24	加世田	3	3										
	25	加世田常潤	2		1							1		
南九州市	26	頴娃	2	1		1								
	27	川辺	2	2										
	28	薩南工業	4			3			1					

市町名	NO	学校名 (私立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
南さつま市	⑬	鳳凰●		●						●		●	●	

県内高校の設置状況【北薩学区】《令和7年度》

市町名	NO	学校名 (○：市立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
薩摩川内市	29	川内	7	7										
	30	川内商工	8			6	2							
	31	川薩清修館	3				1							2
さつま町	32	薩摩中央	4	1	2							1		
阿久根市	33	鶴翔	4		2									2
出水市	34	野田女子	3						2	1				
	35	出水	3	3										
	36	出水工業	3			3								
	37	出水商業○	4				4							
市町名	NO	学校名 (私立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
薩摩川内市	⑭	れいめい●		●		●							●	
出水市	⑮	出水中央●		●						●		●		

■

県内高校の設置状況【始良・伊佐学区】《令和7年度》

市町名	NO	学校名 (○：市立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	他 その	
伊佐市	38	大口	2	2										
	39	伊佐農林	2		1								1	
始良市	40	蒲生	3	2			1							
	41	加治木	8	8										
	42	加治木工業	7			7								
霧島市	43	霧島	2			1								1
	44	隼人工業	4			4								
	45	国分	8	7									1	
	46	福山	2	1			1							
	47	国分中央○	7		1		3		2				1	
市町名	NO	学校名 (私立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
伊佐市	⑩	大口明光●		●										
始良市	⑪	龍桜●							●	●		●		
霧島市	⑫	鹿児島第一●		●										

県内高校の設置状況【大隅学区】《令和7年度》

市町名	NO	学校名 (○：市立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
曾於市	48	曾於	5	1	1	1	1						1	
志布志市	49	志布志	3	3										
鹿屋市	50	串良商業	3				3							
	51	鹿屋	6	6										
	52	鹿屋農業	6		6									
	53	鹿屋工業	6			6								
	54	鹿屋女子○	5	1			2		2					
肝付町	55	楠隼	3	3										
垂水市	56	垂水	2	1					1					
南大隅町	57	南大隅	2				2							

市町名	NO	学校名 (私立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
志布志市	⑪	尚志館●		●		●	●			●		●	●	
鹿屋市	⑫	鹿屋中央●											●	

■ 県内高校の設置状況【熊毛学区】 《令和7年度》

市町名	NO	学校名	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
西之表市	58	種子島	4	2	1	1								
中種子町	59	種子島中央	3	2			1							
屋久島町	60	屋久島	3	2			1							

■ 県内高校の設置状況【大島学区】 《令和7年度》

市町名	NO	学校名	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
奄美市	61	大島	6	6										
	62	奄美	5			1	2		1	1				
		奄美（定時）	1				1							
	63	大島北	2	1			1							
瀬戸内町	64	古仁屋	2	2										
喜界町	65	喜界	2	1			1							
徳之島町	66	徳之島	3	2										1
知名町	67	沖永良部	3	2			1							
与論町	68	与論	2	2										

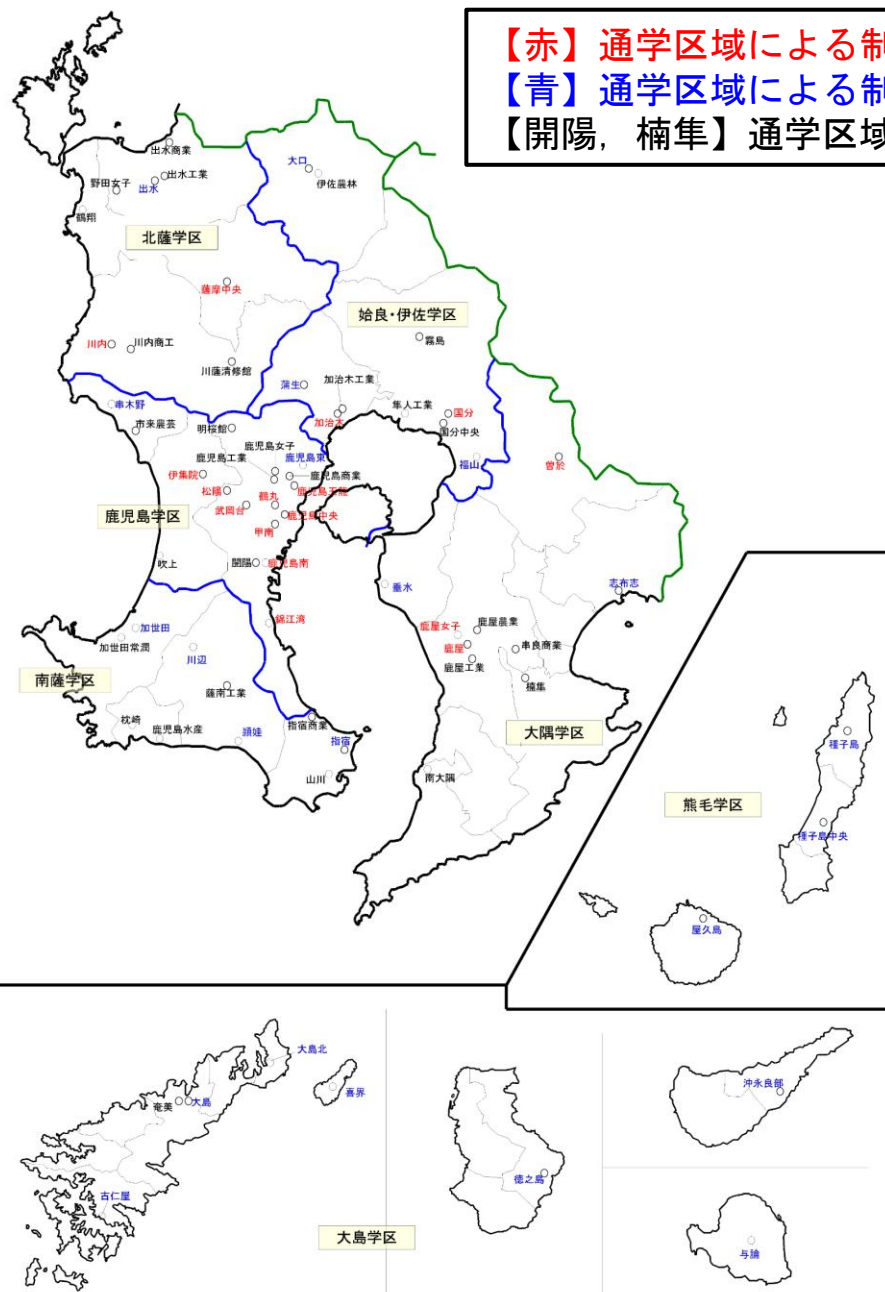
市町名	NO	学校名 (私立)	学級数	普通科	専門学科									総合学科
					農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉	その他	
天城町	㊴	樟南第二●		●		●	●							

通学区域の状況（県立・普通科）

【赤】通学区域による制限がある普通科（14校）

【青】通学区域による制限がない普通科（22校）

【開陽，楠隼】通学区域を設けないものとする。



通学区域による制限がある普通科（14校）

鹿児島	鶴丸， 甲南， 鹿児島中央， 錦江湾， 武岡台， 松陽， 鹿児島南， 伊集院
南薩	—
北薩	川内， 薩摩中央
始良・伊佐	加治木， 国分
大隅	曾於， 鹿屋
熊毛	—
大島	—

通学区域による制限がない普通科（22校）

鹿児島	鹿児島東， 串木野
南薩	指宿， 頴娃， 加世田， 川辺
北薩	出水
始良・伊佐	大口， 蒲生， 福山
大隅	志布志， 垂水
熊毛	種子島， 種子島中央， 屋久島
大島	大島， 大島北， 古仁屋， 喜界， 徳之島， 沖永良部， 与論

学校規模（公立 1 学年）の状況《令和 7 年度募集定員策定時》

【全日制・定時制】

学区	全日制								定時制 (学級数)
	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級	9 学級	
鹿児島	2	2	1	1	3	1	7	1	開陽(2)
南薩	5	3	1	1					
北薩		4	3			1	1		
姶良・伊佐	4	1	1			2	2		
大隅	2	3		2	3				
熊毛		2	1						
大島	4	2		1	1				奄美(1)
計	17校	17校	7 校	5 校	7 校	4 校	10校	1 校	2 校

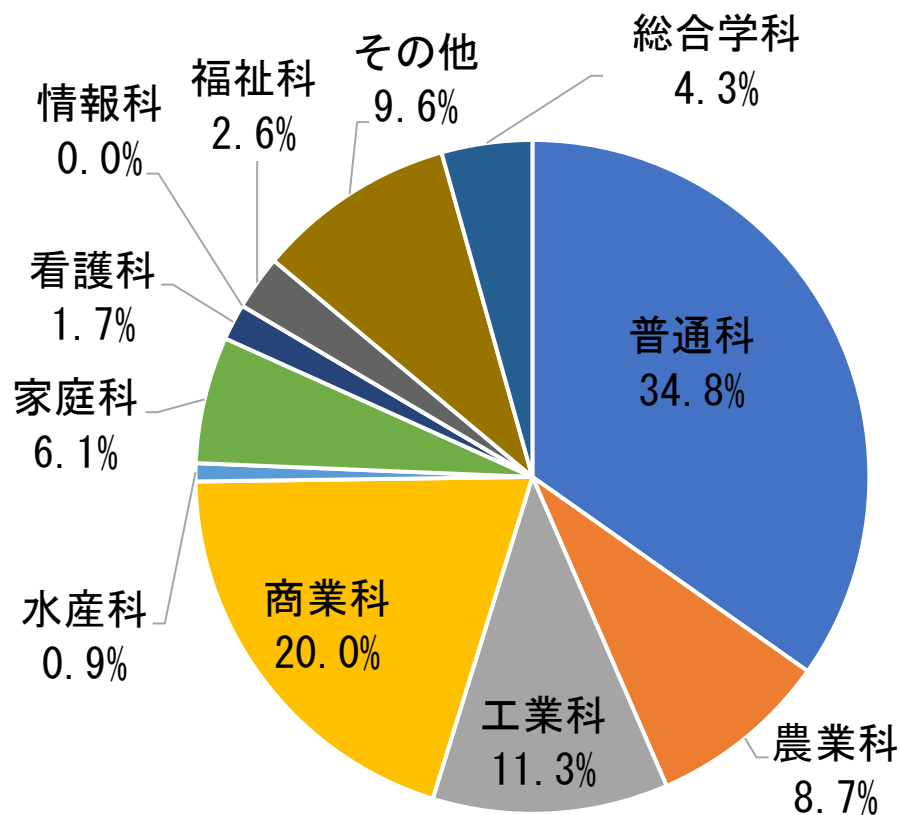
【専攻科】

学区	学校名	学科	1 年	2 年	1 学年定員
南薩	鹿児島水産	水産	3 学級	3 学級	30人
北薩	野田女子	看護	1 学級	1 学級	—

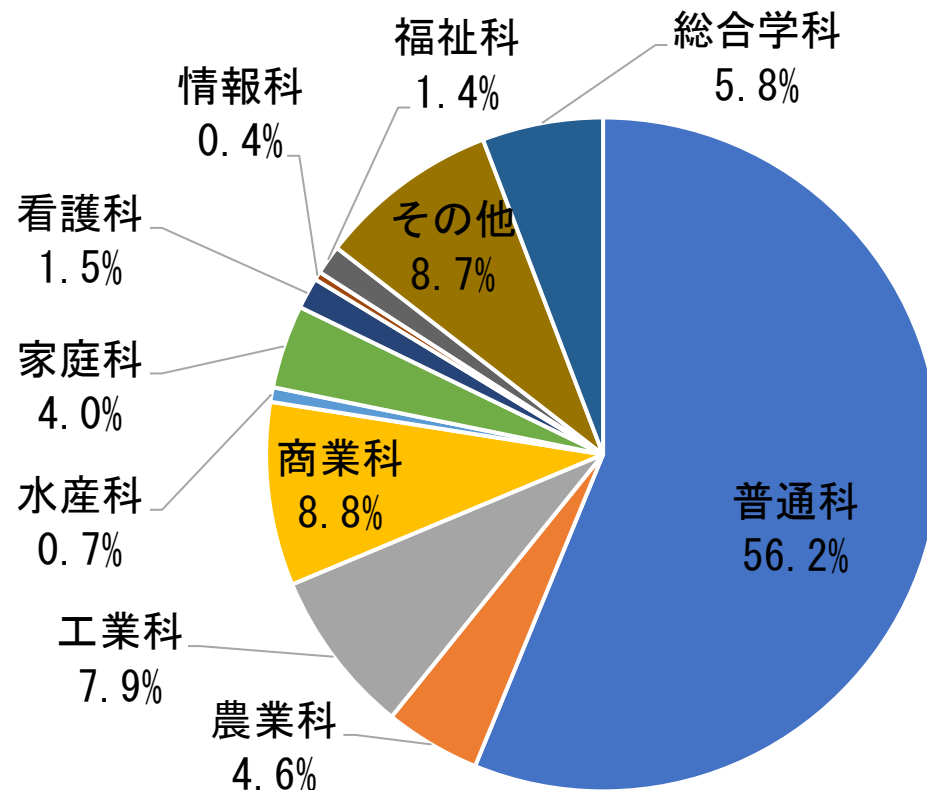
学科（大学科）別学校数（全日制・定時制）

（出典）「学校基本調査」

学校数（R7県内公立）



学校数（R6全国：国立・公立・私立）



【学校数：R7年度県内公立68校（複数の学科を設置している場合、それぞれの学科に計上している。）】

普通科	専門学科									総合学科
	農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	看護科	情報科	福祉科	その他	
40	10	13	23	1	7	2	0	3	11	5

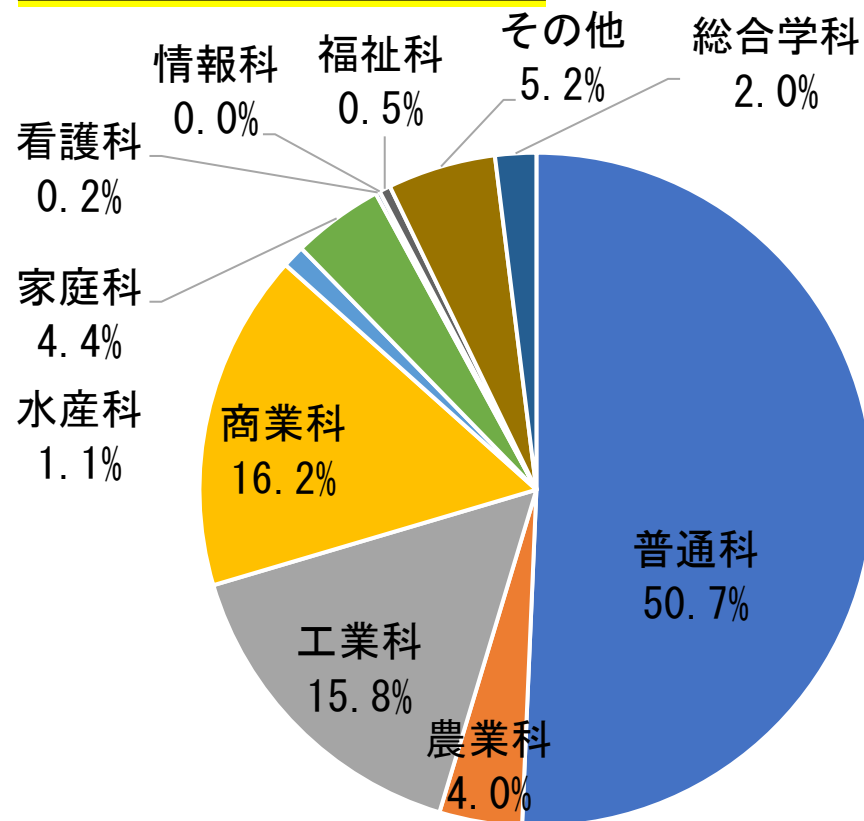
※ 鹿児島県公立の「普通科」には「普通科以外の普通教育を主とする学科（ミライデザイン）」を含む。

※ 鹿児島県公立の「その他」には、理数科、文理科、文理科学科、体育科、情報科学科、音楽科、美術科、スポーツ健康科、アスリートスポーツ科、生活情報科を含む。

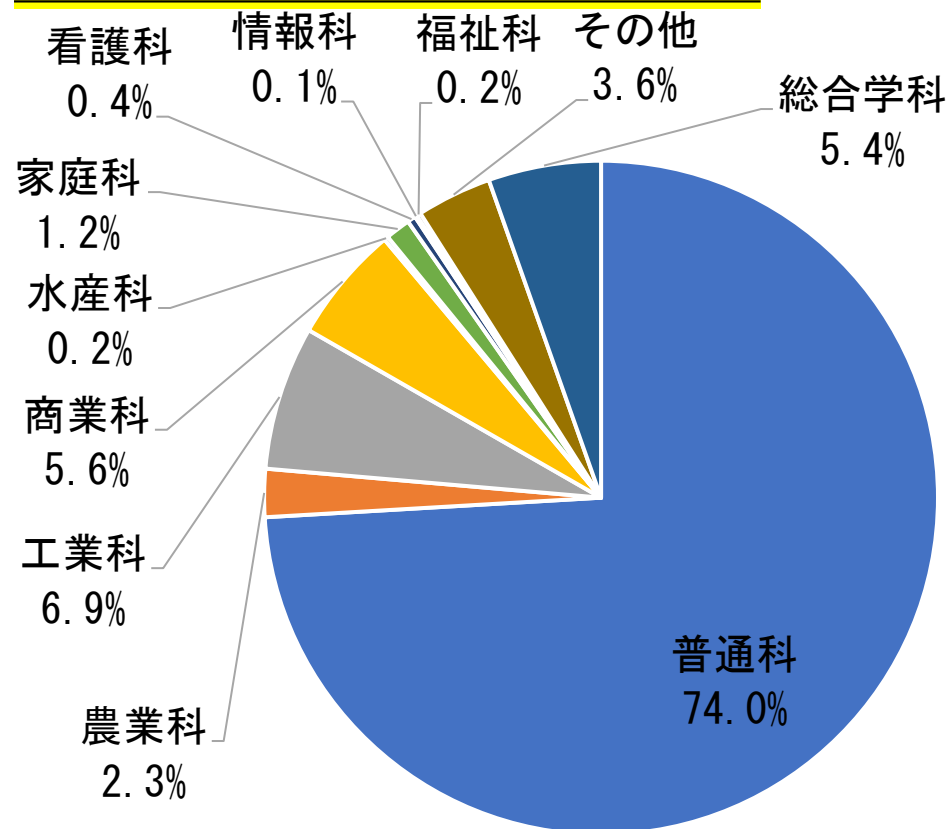
学科（大学科）別在籍者数（全日制・定時制）

（出典）鹿児島県公立「在籍者数調査」
全国「学校基本調査」

在籍者数（R7県内公立）



在籍者数（R6全国：国立・公立・私立）



【在籍者数：R7年度県内公立68校（全日制・定時制）入学式当日現在 26,748人】

普通科	専門学科									総合学科
	農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	看護科	情報科	福祉科	その他	
13,556	1,061	4,220	4,334	289	1,172	56	0	144	1,389	527

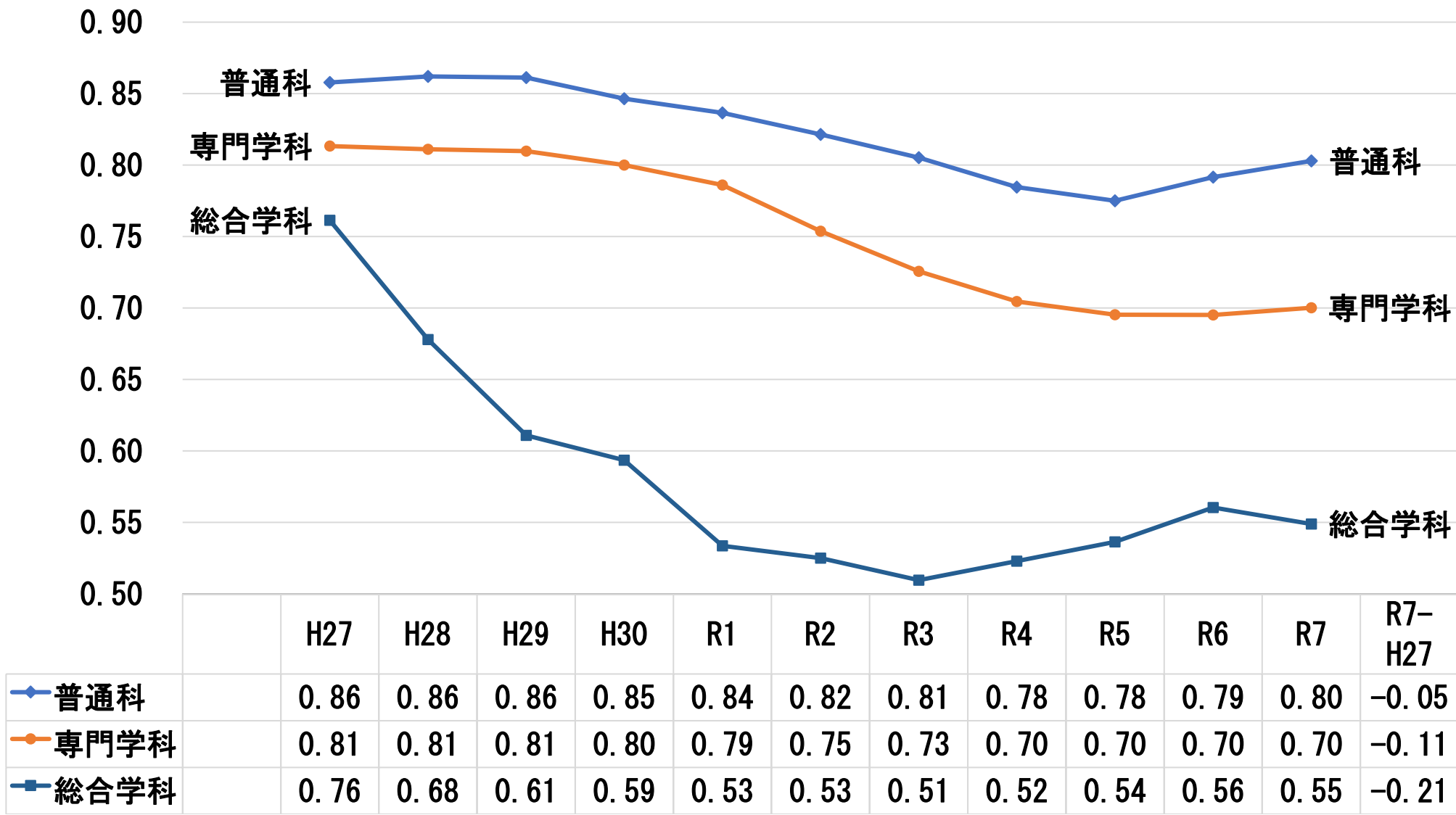
※ 鹿児島県公立の「普通科」には「普通科以外の普通教育を主とする学科（ミライデザイン）」を含む。

※ 鹿児島県公立の「その他」には、理数科、文理科、文理科学科、体育科、情報科学科、音楽科、美術科、スポーツ健康科、アスリートスポーツ科、生活情報科がある

学科（小学科）の状況（公立：全日制・定時制）《令和7年度》

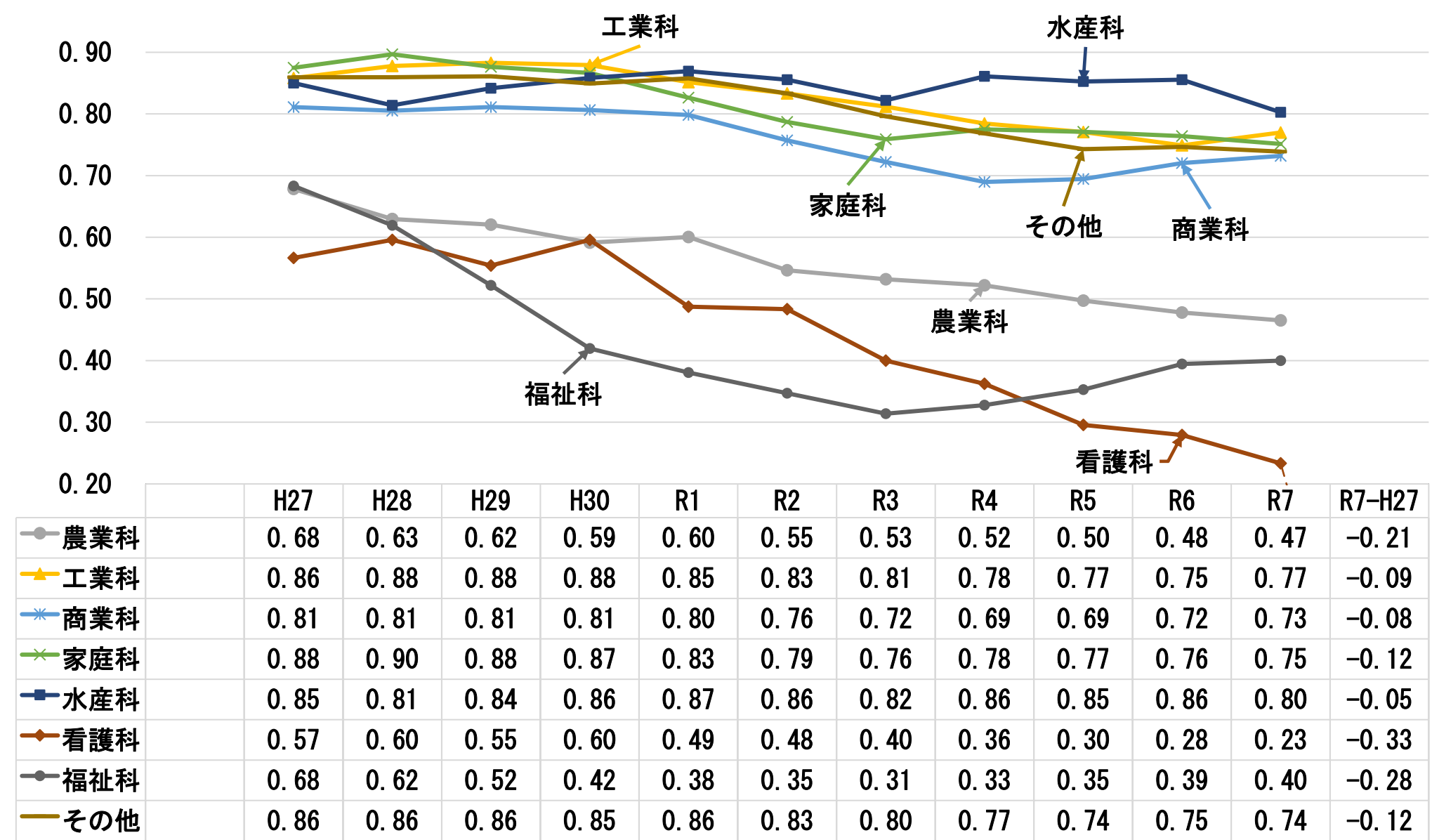
学科		小学科
普通科		普通科，ミライデザイン科（2学科）
専門学科	農業科	農業科，農業科学科，園芸工学科，園芸工学・農業経済科，園芸科，農林技術科，環境園芸科，畜産食農科，畜産科，生物生産科，農業機械科，農業工学科，農林環境科，食農プロデュース科，食品技術科，食と生活科（16学科）
	工業科	機械科，電子機械科，機械電気科，機械電子科，電気（電気技術）科，電子科，情報技術科，建築科，土木（建設技術）科，工業化学科，インテリア科，工業Ⅰ類，工業Ⅱ類（13学科）
	商業科	商業科，商業マネジメント科，情報処理科，情報ビジネス科，ビジネス情報科，情報マネジメント科，国際経済科，情報会計科，総合ビジネス科，ビジネス会計科，会計マネジメント科，ビジネスクリエイト科，情報イノベーション科，オフィス情報科，ファイナンシャルビジネス科，ビジネスデザイン科，スポーツビジネス科（17学科）
	水産科	海洋科，情報通信科，食品工学科（3学科）
	家庭科	家政科，食物科，生活科学科，生活デザイン科，生活文化科，ファッション・フードクリエイト科，ライフ・スポーツ科（7学科）
	看護科	衛生看護科（1学科）
	福祉科	福祉科，生活福祉科（2学科）
	その他	理数科，文理科，文理科学科，体育科，情報科学科，音楽科，美術科，スポーツ健康科，アスリートスポーツ科，生活情報（10学科）

■ 学科別充足率推移（公立：全日制） 《平成27年度～令和7年度》



※ 「普通科」には「普通科以外の普通教育を主とする学科（ミライデザイン）」を含む。
※ 「専門学科」には、理数科，文理科，文理科学科，体育科，情報科学科，音楽科，美術科，スポーツ健康科，アスリートスポーツ科，生活情報科を含む。

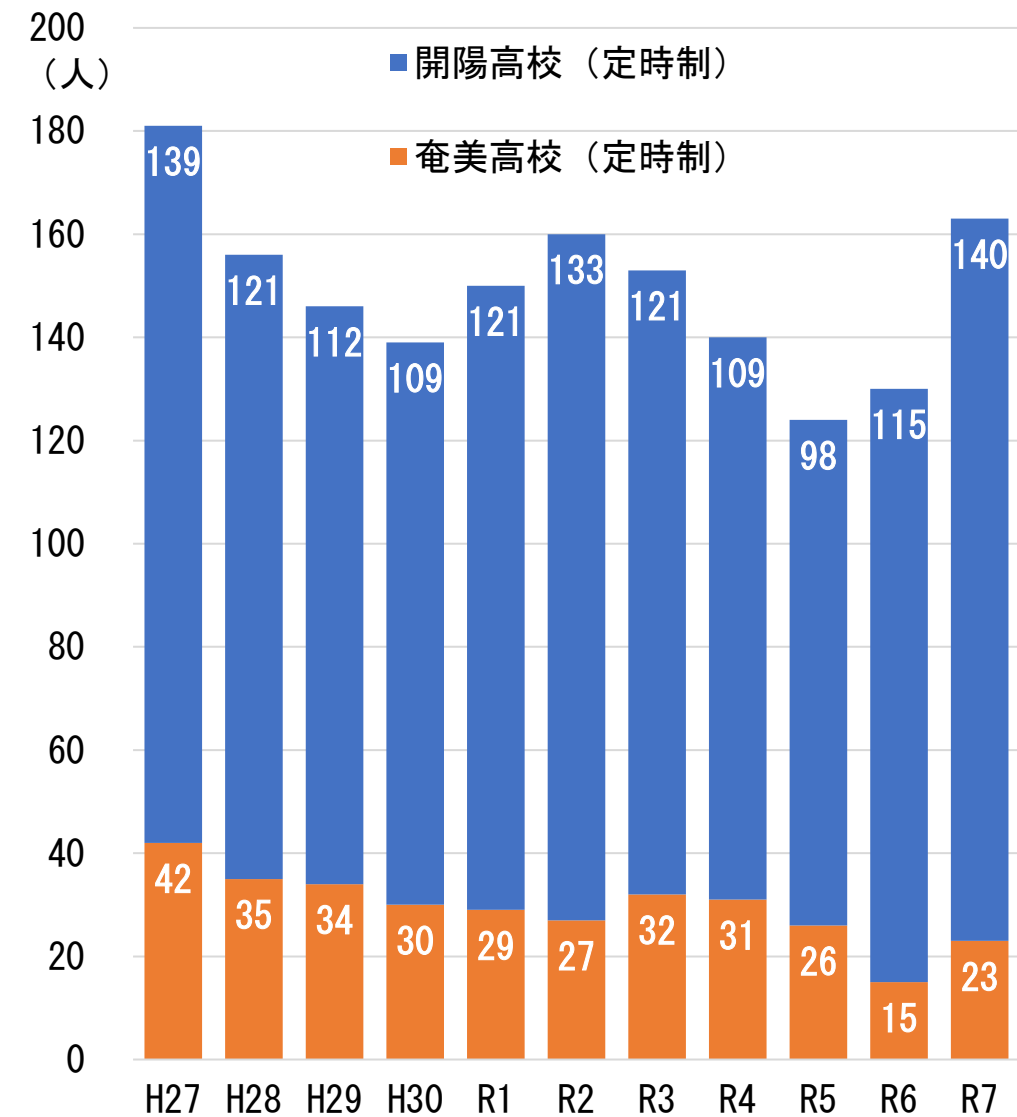
学科別充足率推移（公立：全日制・専門学科）《平成27年度～令和7年度》



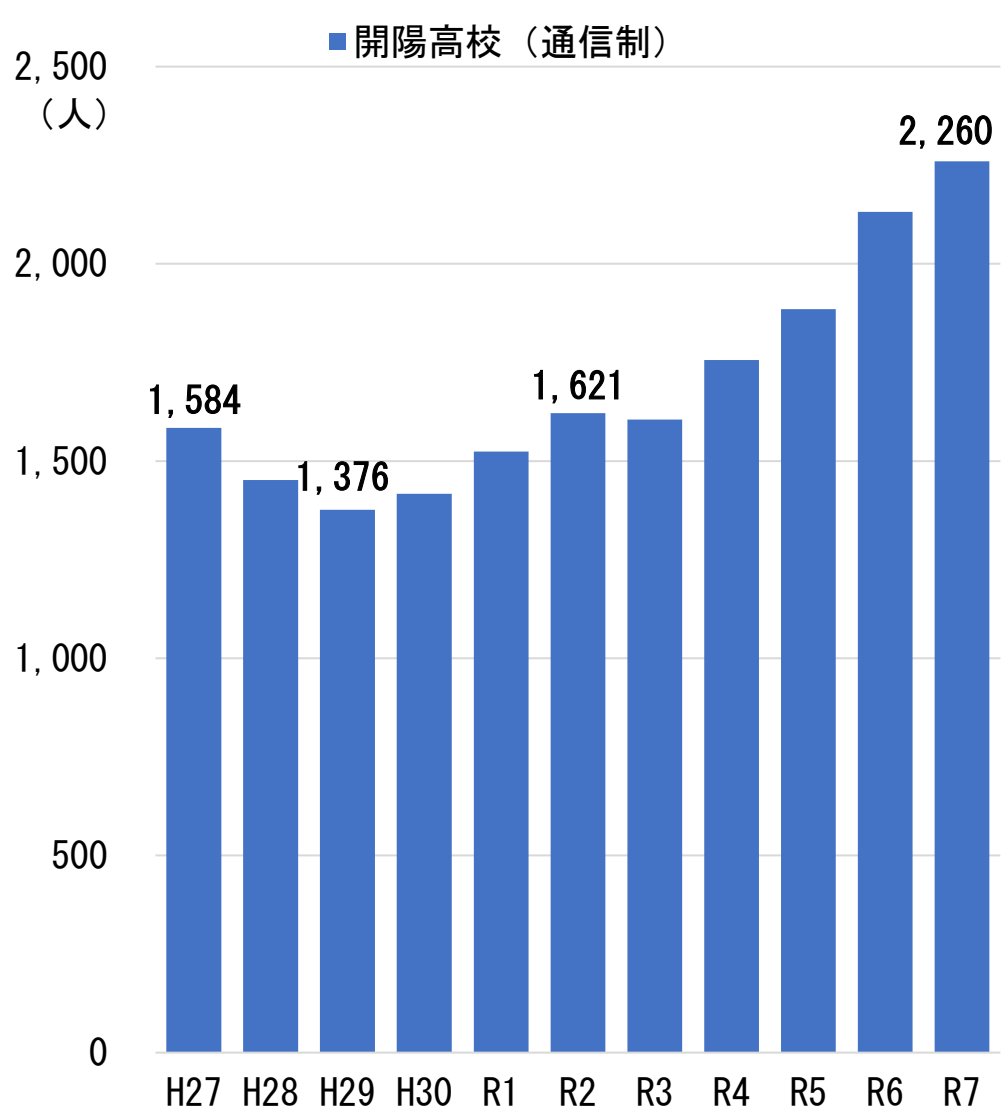
※ 「その他」には、理数科、文理科、文理科学科、体育科、情報科学科、音楽科、美術科、スポーツ健康科、アスリートスポーツ科、生活情報科を含む。

■ 定時制・通信制の在籍者数の推移（公立）

定時制 開陽：普通科・オフィス情報科【定員各40人×3学年】
奄美：商業科【定員40人×4学年】



通信制 開陽：普通科・衛生看護科【定員なし】



※ 開陽高校（定時制）の在籍者数には、後期入学者が含まれない。

説明資料

3 これまでの経緯等

これまでの経緯等

H13. 5
～
H15. 2

鹿児島県公立高等学校
改革推進協議会

「新しい時代に対応した公立高等学校改革の在り方
について」（H15. 2最終報告）

H15. 10

「かごしま活力ある
高校づくり計画」

- ・ 計画期間：H16年度～H22年度
- ・ 適正規模：1 学年 4 ～ 8 学級
- ・ 再編整備指針に基づき，発展的統合を実施
→ 県立高校18校廃止，8 校新設
- ・ 整理統合基準（再編整備指針に拠り難い場合）
→ 県立高校 1 校廃止

H21. 3
～
H22. 3

鹿児島県公立高校
再編整備等検討委員会

「今後の生徒減少に対応した公立高校の在り方につ
いて」（H22. 3答申）

H22. 10

公立高校の振興方針
骨子（案）

- ・ 計画期間：H23年度～H31年度
- ・ 拠点的な役割を担う高校を配置し，教育水準を
維持・向上
- ・ 廃止基準案（整理統合基準に学科条項と地元条
項を加味）
● 公表 → 成案とせず（地域からの異論により
合意形成できず）

■ これまでの経緯等

H23. 2 九州新幹線全線開業効果が及びにくい大隅地域の振興が県政の課題
→ 「大隅地域高校振興事業」
「大隅農業・加工技術研究プロジェクト」
「大隅地域レンタカー無料プラン事業」

H23. 6
～
H24. 3

大隅地域の公立高校の
在り方検討委員会

- ・ 検討委員会と併せて、高校が所在する市や町を基本単位とした7つの地区検討会を設置
- ・ 検討委員会は、地区検討会と協議を重ねながら、高校の在り方について検討
「大隅地域の公立高校の在り方について」
(H24. 3とりまとめ)

H24年度
以降

地元との協議に
基づく再編統合

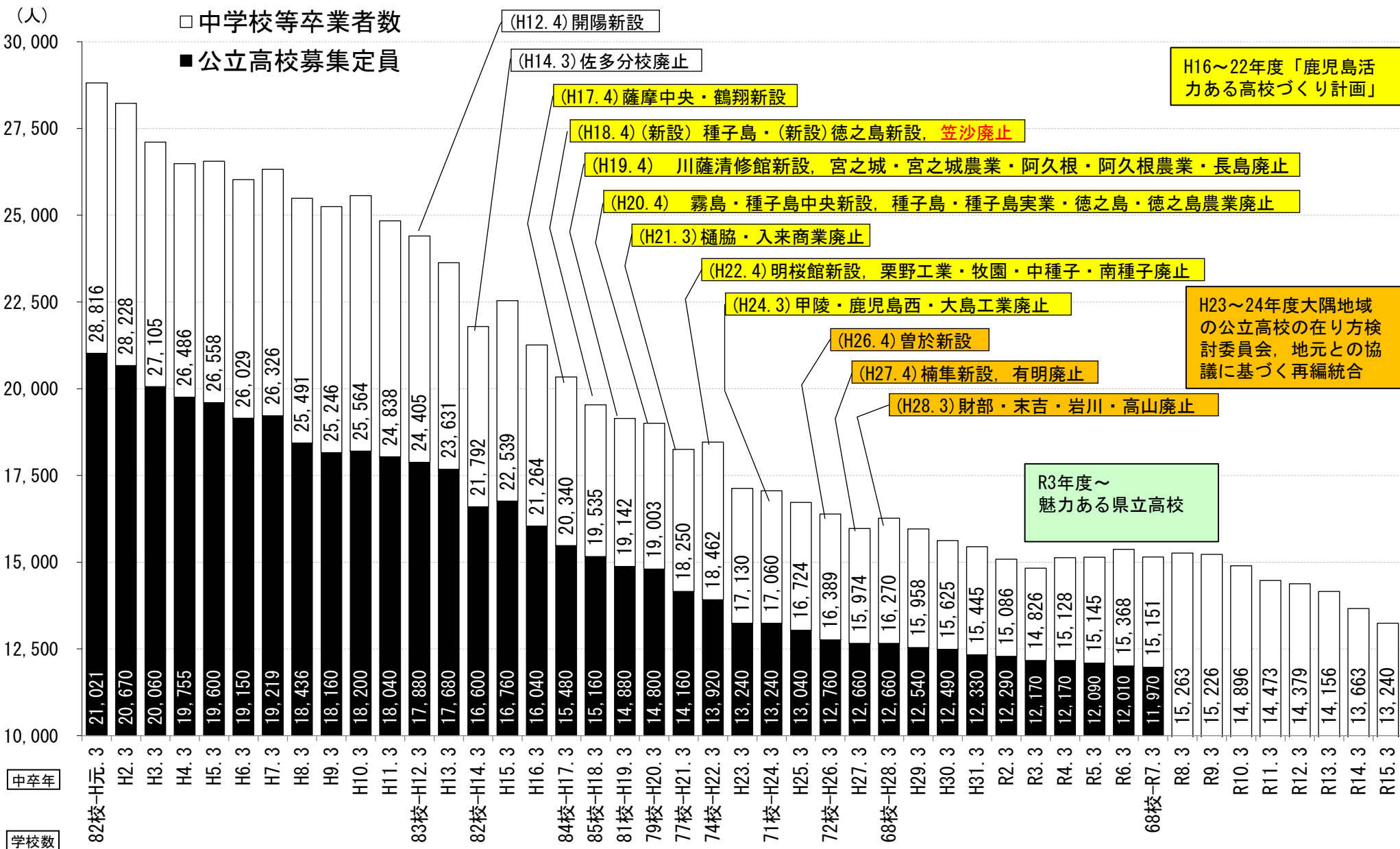
【3地区で再編統合】H26年度～H28年度

- ・ 曾於：3校廃止→1校新設
- ・ 大崎：1校廃止→統合
- ・ 肝付：1校廃止→中高一貫教育校新設

これ以降、高校再編は行わず、生徒数の
減少に対して募集定員の削減で対応

これまでの経緯等

○R6.3卒までは、各年度学校基本調査による実数
○R7.3以降は、R6年度の学校基本調査による推定数



■ これまでの経緯（R3～R4年度）

Ⅱ 中央教育審議会答申（R3. 1. 26） 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

- 高校生の学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するための**各高等学校の特色化・魅力化**
- STEAM教育等の**教科等横断的な学習**の推進による資質・能力の育成
- **いじめ**の重大事態、虐待事案等に対応するための方策
- ICTの活用や、対面指導と遠隔・オンライン教育との**ハイブリッド化**による指導の充実
- 児童生徒の減少による学校規模の**小規模化を踏まえた学校運営** など

本県の対応

<R3 魅力ある県立学校づくりに向けた懇話会>

- 現状と課題を踏まえた県立高校の活性化策について議論
- 魅力ある高校を「**①学びたい学びがある高校**」「**②充実した（楽しい）学校生活を送れる高校**」「**③進路目標を達成できる高校**」と整理
- R4. 3. 22に「とりまとめ」提出

<R4 県立高校の特色化・魅力化推進事業>

- 小規模校連携や遠隔授業に先進的に取り組んでいる他県等を視察
- 中学生や保護者に対し、高校選択のポイントなどをアンケート調査

■ これまでの経緯（R5魅力ある県立高校づくりプロジェクト）

「**学びたい学びがあり**」「**充実した楽しい生活が送れ**」「**進路目標が達成できる**」魅力ある高校づくり

① 「居場所」と「絆」プロジェクト

「生徒指導提要」に基づき発達支持的生徒指導を展開し、すべての生徒が輝く学校づくりを推進

② 県立高校オンラインプロジェクト

各高校の社会的役割を明確にするとともに、各学校の入学から卒業までの教育活動を特色を打ち出したものへと再構成

③ 入試改革推進プロジェクト

より中学生本位の入学者選抜の在り方について検討

④ スーパースクール事業

普通科について、新しい普通科の学科やコース設置を検討するとともに、関係機関や県内外の高校との連携・協働を推進

⑤ エキスパートハイスクールプロジェクト

専門学科について、社会や産業の急激な変化に対応するために、産業界との一層の連携等を推進

⑥ ICT活用推進プロジェクト

教員のICT活用力指導力の向上や、小規模校へのオンラインを活用した学習サポートに取り組み、遠隔授業実施に向けた制度設計を推進

⑦ 小規模県立高校サポート事業

小規模校について、複数の小規模校を1つのグループとみなし、学習活動や行事等を合同で実施できるよう支援

⑧ 県立高校魅力発信プロジェクト

学校の魅力を広報する手法として動画を取り入れるとともに、生徒主体で作成することで生徒の企画力・プレゼン力の向上

■ これまでの経緯（R6魅力ある県立高校づくりプロジェクト）

「**学びたい学びがあり**」「**充実した楽しい生活が送れ**」「**進路目標が達成できる**」魅力ある高校づくり

① かごしまSTEAM教育推進プロジェクト

課題解決型の探究活動や専門人材の活用，ICT環境の整備でSTEAM人材育成を加速

② 専門高校DXスタートアッププロジェクト

専門学科の学習活動にAIやVR，3Dプリンターなどを活用した次世代人材の育成

③ 農業高校の学び充実検討事業

技術革新に対応した農業教育や，鹿児島島の農業を支える人材育成などについて，有識者会議を開催

④ かごしまOnline－Campusプロジェクト

R7からの単位認定可能な遠隔授業開始に向け，トライアル配信を実施し課題への対応

⑤ 県立高等学校通学費支援事業

路線バス等の減便・廃止による影響を受けた高校生に，通学費の一部を補助

⑥ 「居場所」と「絆」プロジェクト 2nd season

「発達支持的生徒指導」による授業・行事の改善等や「心の健康観察」の推進で居場所と絆づくり

⑦ スーパースクール × DXハイスクール

ミライデザイン科の学びを，ハイスペックPCやデジタル工作機械等の導入により更に充実

⑧ 県立高校魅力発信プロジェクト

県教委HPで県立高校の魅力を発信し，SNS等も利用して中学生への訴求力が高い広報を実施

⑨ 小規模校サポート事業

複数の小規模校を1つのグループとみなし，学習活動や行事等を合同で実施できるように支援

現在の取組（R7魅力ある県立高校づくりプロジェクト）

「**学びたい学びがあり**」「**充実した楽しい生活が送れ**」「**進路目標が達成できる**」魅力ある高校づくり

1 県立高校の将来ビジョン検討事業

今後の望ましい県立高校の教育の在り方について検討

2 魅力ある県立高校づくり推進事業

① 小規模高校サポート事業

複数の小規模校を一つのグループとみなし、学習活動や行事等を合同で実施できるように支援

② 遠隔授業推進事業

離島の小規模高等学校に単位認定が可能な遠隔授業を配信、多様な進路実現に向けた教育を実施

3 高等学校DX加速化推進事業

① STEAM教育推進プロジェクト

課題解決型の探究活動や専門人材の活用、ICT環境の整備でSTEAM人材育成を加速

② 専門高校DXスタートアッププロジェクト

専門学科の学習活動にAIやVR、3Dプリンターなどを活用した次世代人材の育成

③ スーパースクール × DXハイスクール

ミライデザイン科の学びを、ハイスペックPCやデジタル工作機械等の導入により更に充実

4 県立高校生徒通学支援事業

高額な通学費を負担している県立高校生に、通学費の一部を補助

5 「居場所」と「絆」プロジェクト 2nd season

「発達支持的生徒指導」による授業・行事の改善等や「心の健康観察」の推進で居場所と絆づくり

6 県立高校魅力発信プロジェクト

県教委HPやポータルサイト『高校検索ガイド』や、公式SNSで県立高校の魅力を中学生等へ発信

説明資料

4 国の動向

高等学校教育の在り方ワーキンググループ 審議まとめ（令和7年2月） 概要

参考資料 1

I. これからの高等学校の在り方に係る基本的な考え方

高校教育の実態が地域・学校により非常に多様な状況にあるため、質の確保・向上に向けて、「多様性への対応」と「共通性の確保」を併せて進める必要

■ 多様性への対応

- 地理的状況や各学校・課程・学科の枠にかかわらず、いずれの高校においても多様な学習ニーズに対応し、潜在的なニーズに応える柔軟で質の高い学びを実現

■ 共通性の確保

- 「自己を理解し、自己決定・自己調整ができる力」の育成
- 「自ら問いを立て、多様な他者と協働しつつ、その間に対する自分なりの答えを導き出し、行動することのできる力」の育成
- 「自己の在り方生き方を考え、当事者として社会に主体的に参画する力」の育成
- 義務教育において修得すべき資質・能力の確実な育成など、「知・徳・体のバランスのとれた土台」の形成

に

取り組む
ことが
特に重要

II. 各論点に対する現状・課題認識と具体的方策

主な手段の
凡 例 ○：通知等 □：予算事業 ◇：調査 ☆：その他取組

1 少子化が加速する地域における 高等学校教育の在り方

- 少子化の影響により多くの地域で統廃合が進行。今後も15歳人口の減少は一層加速。小規模校の教育条件の改善が必要。
- 生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化が必要。

小規模校の教育条件の改善に向けて

- 教科・科目充実型の遠隔授業、全日制・定時制課程における通信教育の活用、学校間連携等の推進による学びの機会の充実に関する実証研究の実施
- 配信センターの体制・環境整備、学校間連携等の促進
- ◇ スクール・ミッション、スクール・ポリシー等を踏まえた学校教育活動の実施・改善、学校の特色化・魅力化
- ☆ 都道府県と市町村の連携・協力による学校運営
- 地域や学校を越えた生徒同士の学びのネットワークの構築
- コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入等による学校と地域社会の連携・協働の推進
- 学校における働き方改革の推進、コーディネーター等の配置支援

2 全日制・定時制・通信制の望ましい在り方

- 不登校児童生徒数が義務教育段階を中心に増大。高校段階では通信制の生徒数が近年急増。
- 全日制・定時制・通信制いずれの課程にあっても、柔軟で質の高い学びを保障していくことが必要。

生徒の多様な学習ニーズに応える 柔軟で質の高い学びの実現に向けて

不登校生徒の学習機会の確保

- 自宅等からの同時双方向型の遠隔授業や通信教育の活用に関する実証研究、モデル事例の創出
- ☆ 履修・修得の柔軟な認定の促進
- 学びの多様な学校や校内教育支援センターの設置促進
- 不登校経験が不利益に扱われない高校入学者選抜 等
- 定時制・通信制課程における優良事例の創出等
- ◇ 広域通信制の設置認可等に関する状況の把握等
- 通信制課程に係る情報公表や制度等に係る情報発信
- ◇ 不登校生徒に対する継続的な実態調査
- SC・SSWの配置充実、心理・福祉分野に強みや専門性を有する教師の育成等
- 公立通信制高校等の機能強化等
- 高校における特別支援教育の充実に向けた体制整備
- 外国につながる生徒の受入れに向けた体制整備

3 社会に開かれた教育課程、 探究・文理横断・実践的な学びの推進

- 高校生の3割が家や塾で学習を「しない」と回答。
- 授業の満足度・理解度は学年が上がるとともに低下。
- 多くの高校で文理のコース分けがなされ、特定の教科を十分に学習しない傾向。

全ての生徒の学びの充実にに向けて

- 普通科改革の促進、コーディネーターの配置支援を通じた探究・文理横断・実践的な学びの推進
- グローバル人材育成に資する拠点校の整備、留学をはじめ国際交流の促進、理数系教育の更なる充実
- 産業界等と専門高校の連携・協働の強化、専門高校を拠点とした地域人材の育成・地方創生の支援、専門高校の魅力の発信
- DXハイスクール事業の更なる推進
- ☆ 学習指導要領の理解や着実な実施、定着
- ☆ 学校における働き方改革の推進、教職員の配置を含む高校の指導体制の充実
- 教師の資質・能力の向上のためのオンライン研修コンテンツの開発支援、探究型の研修の開発・普及
- ☆ 大学入学者選抜を含む高大接続改革の推進
- ☆ 教育費の負担軽減

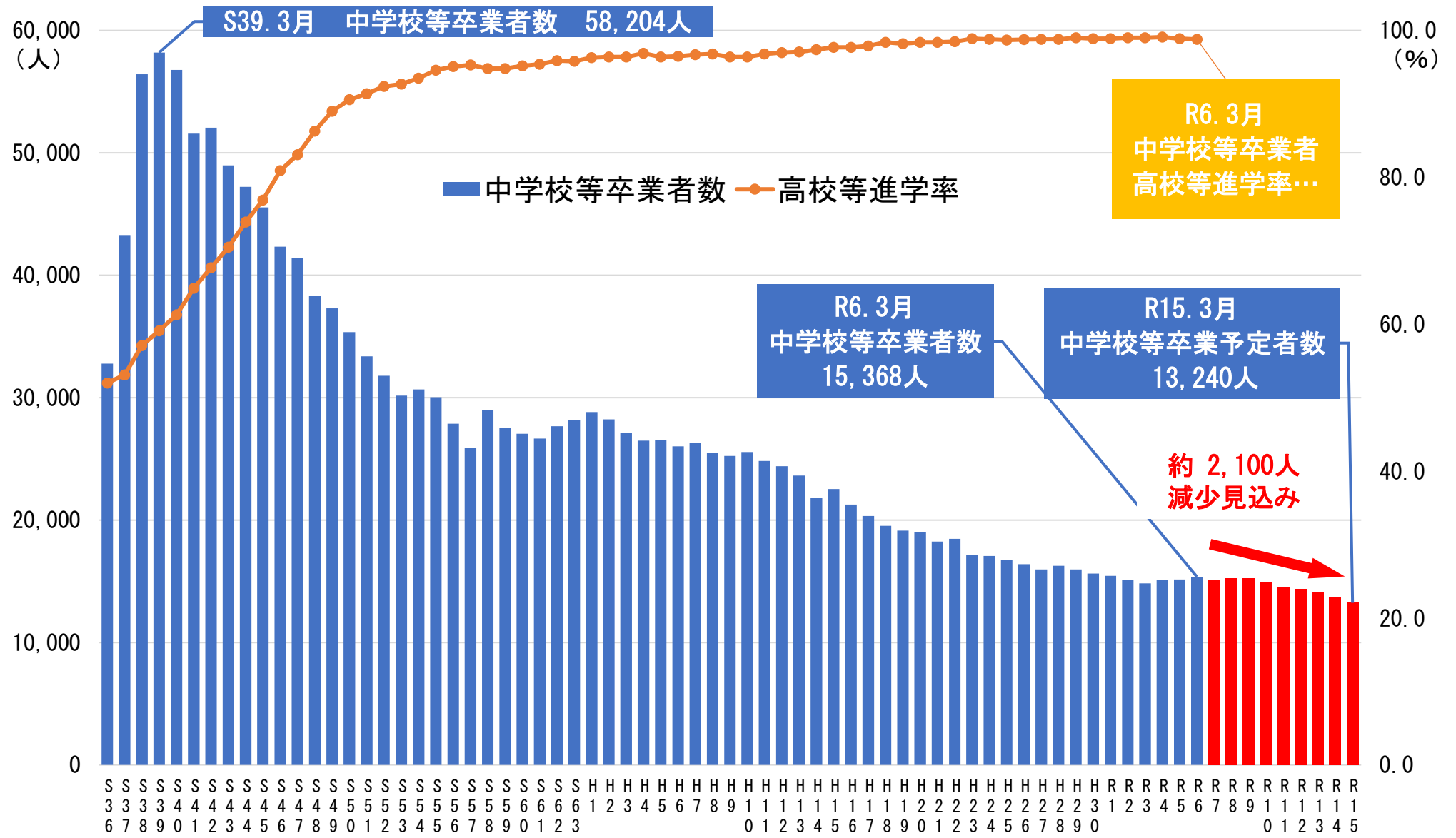
説明資料

5 今後の課題



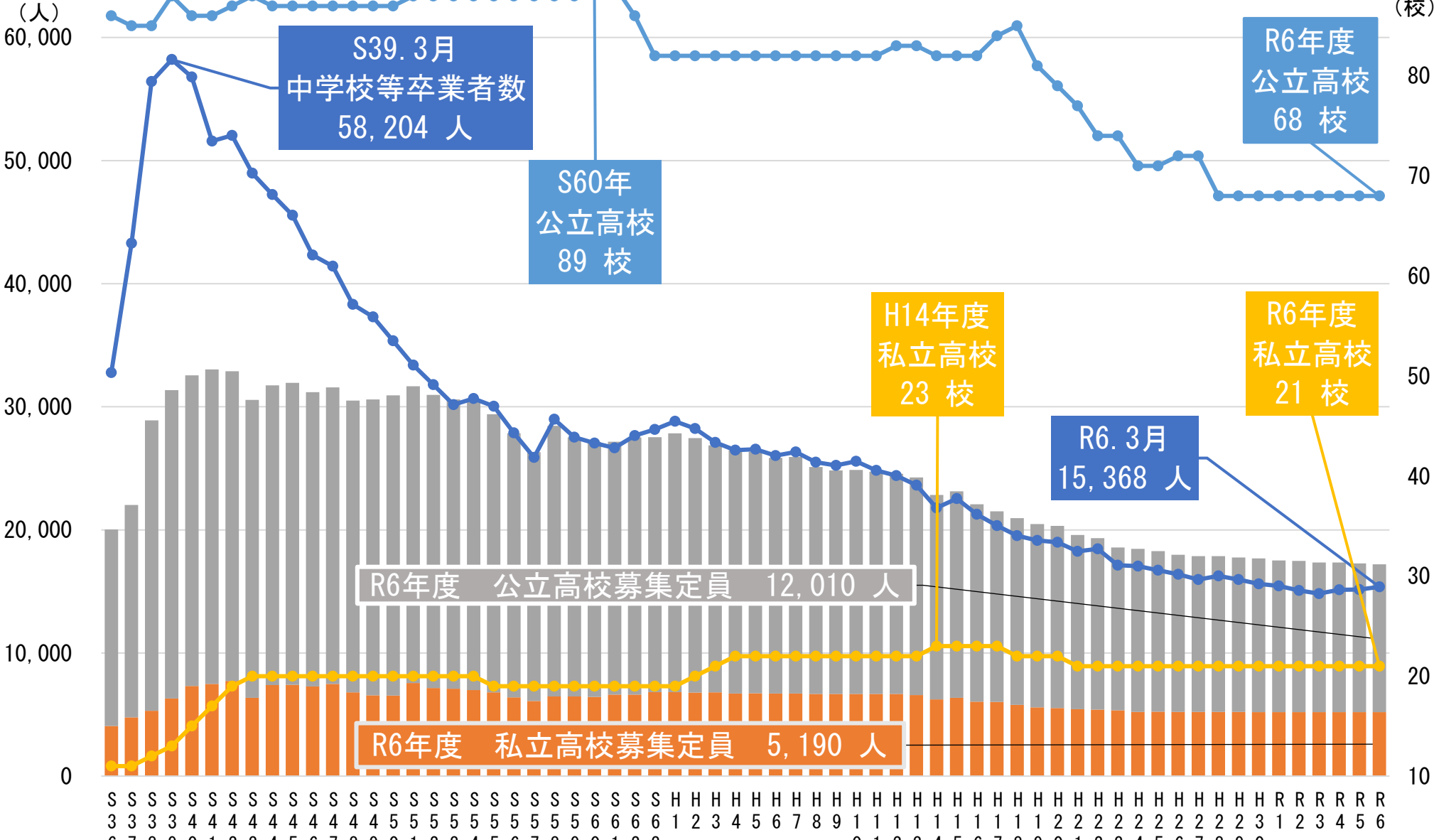
中学校等卒業（予定）者数と高校等進学率の推移

(出典) 「学校基本調査」



※ 令和7年3月以降は、令和6年5月1日現在の小・中学校等在籍者数である。

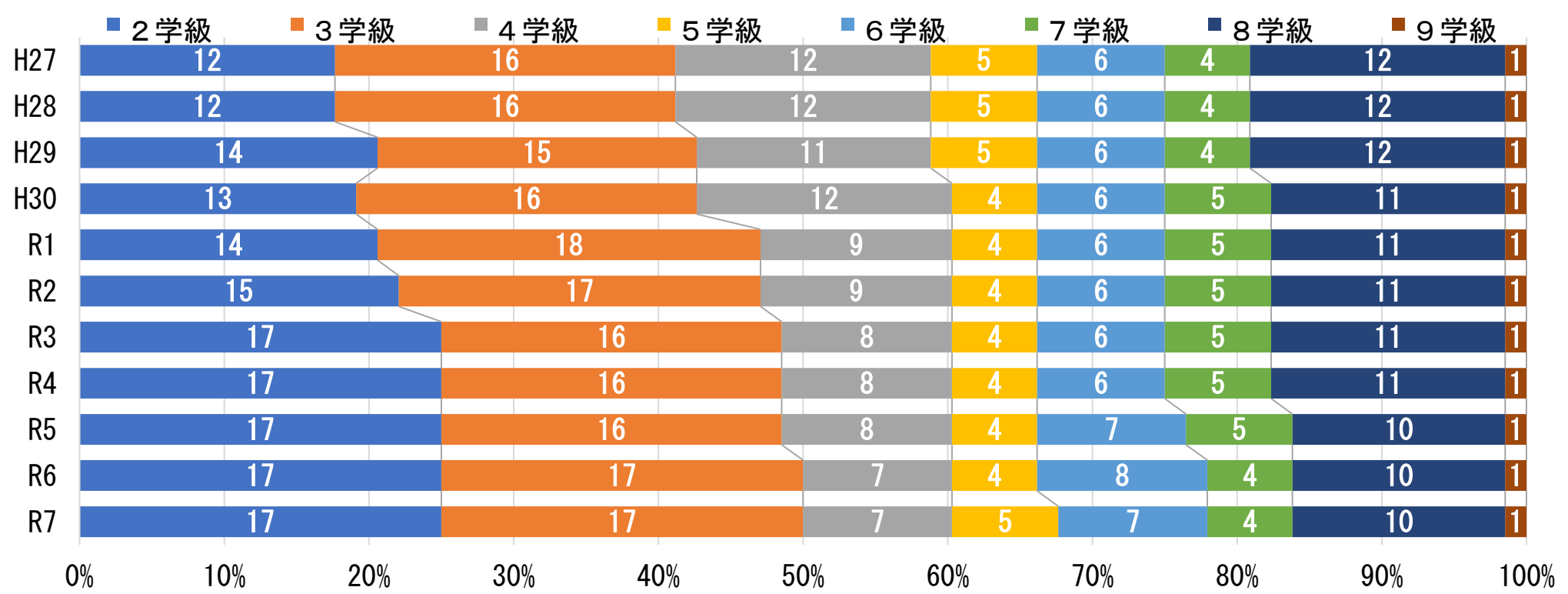
(出典) 「学校基本調査」



85
(%)



公立高校の学校規模（全日制・1学年）推移《各年度募集定員策定時》



【公立高校の学校規模（全日制・1学年）別入学充足率の推移】

	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級	9 学級
R 3 年度	0.41	0.60	0.59	0.81	0.79	0.82	0.92	1.00
R 4 年度	0.47	0.61	0.65	0.81	0.79	0.77	0.92	1.00
R 5 年度	0.50	0.65	0.64	0.83	0.75	0.83	0.93	0.87
R 6 年度	0.51	0.60	0.73	0.76	0.79	0.94	0.94	1.00
R 7 年度	0.44	0.61	0.60	0.71	0.82	0.92	0.97	1.00

小規模校のメリット・課題 (「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」より)

- 小規模校に関する一般的なメリットと課題について、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」の中では以下のように記載している。高等学校の小規模校についてはこうした点のほか、配置できる教員の数に限られるため、生徒が履修できる科目に限られるという課題も挙げられる。

【一般に小規模校に存在するとされるメリット】

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を发表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

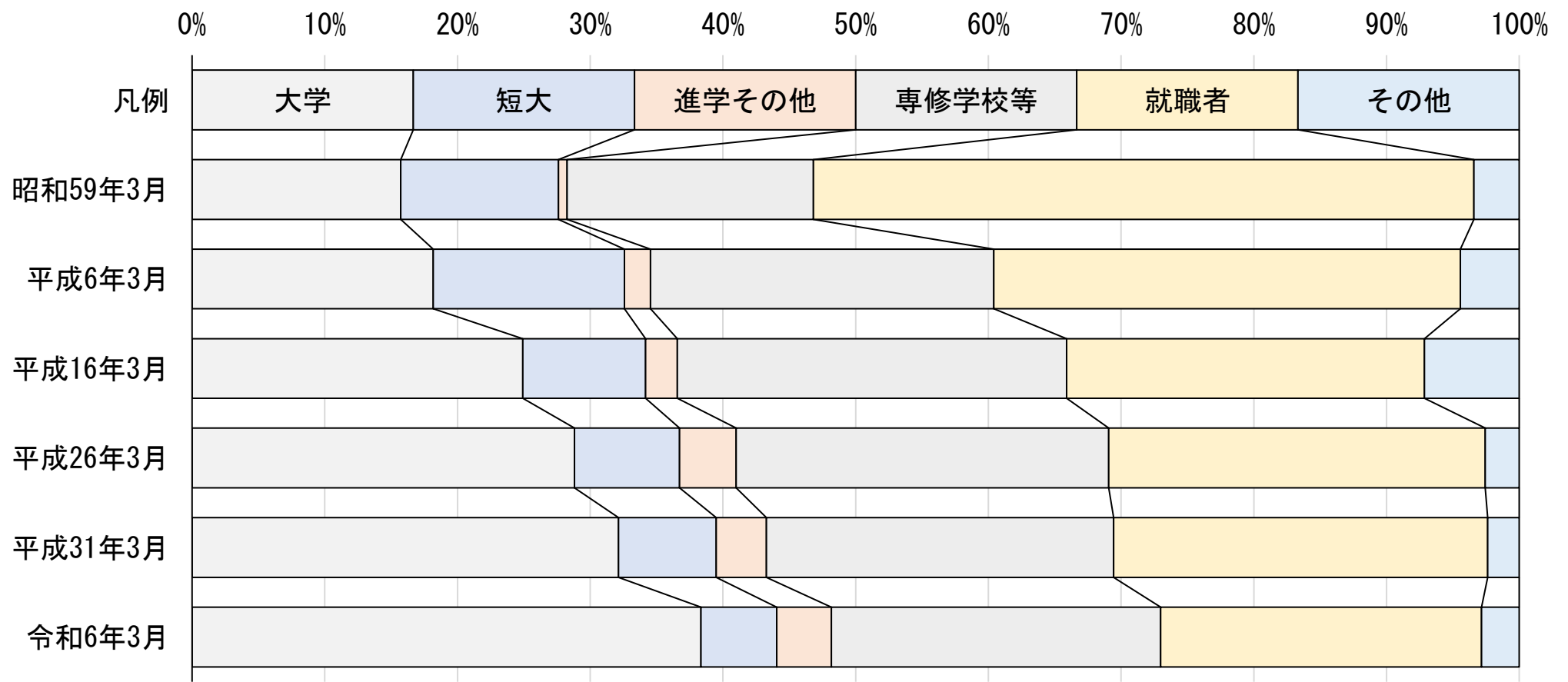
【一般に、学級数が少ないことによる生じうる学校運営上の課題】

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる



県内高校卒業後の進路状況の推移（公私立）

（出典）「学校基本調査」

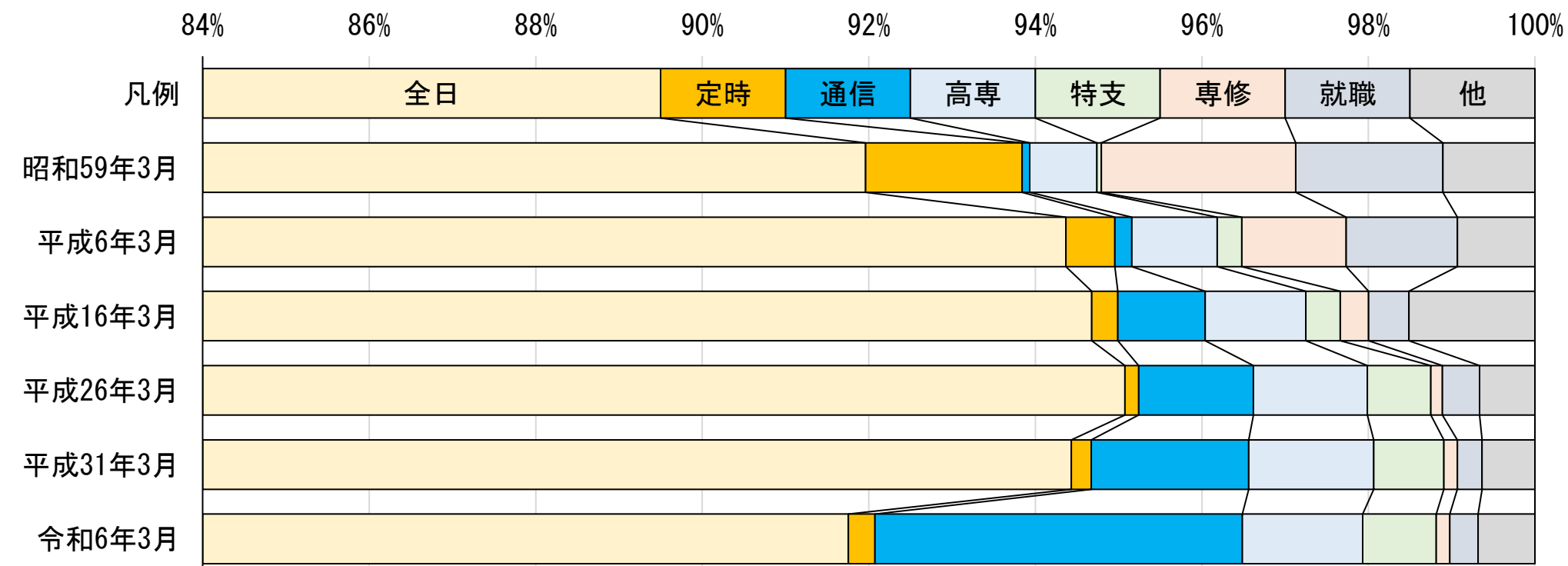


	大学	短大	進学その他	専修学校等	就職者	その他
昭和59年3月	15. 7%	11. 9%	0. 7%	18. 6%	49. 8%	3. 4%
平成6年3月	18. 2%	14. 4%	2. 0%	25. 9%	35. 2%	4. 4%
平成16年3月	24. 9%	9. 2%	2. 4%	29. 3%	27. 0%	7. 1%
平成26年3月	28. 8%	7. 9%	4. 3%	28. 1%	28. 4%	2. 6%
平成31年3月	32. 1%	7. 4%	3. 8%	26. 2%	28. 2%	2. 4%
令和6年3月	38. 4%	5. 7%	4. 1%	24. 8%	24. 2%	2. 8%



県内中学校等卒業後の進路状況の推移（国公立）

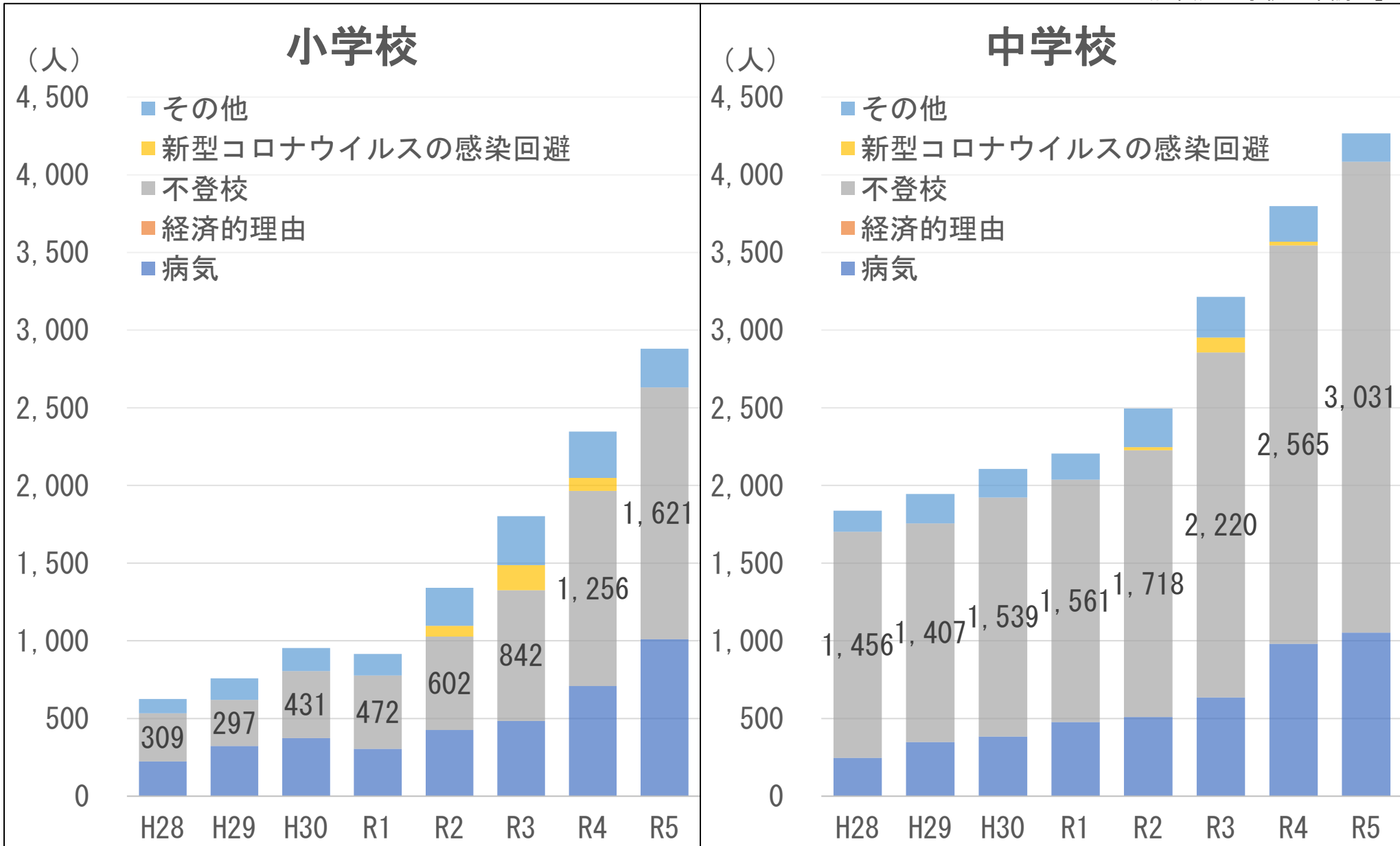
（出典）「学校基本調査」



	全日制	定時制	通信制	高等 専門学校	特別支援 学校 高等部	専修学校等	就職者	その他
昭和59年3月	92.0%	1.9%	0.1%	0.8%	0.1%	2.3%	1.8%	1.1%
平成6年3月	94.4%	0.6%	0.2%	1.0%	0.3%	1.3%	1.3%	0.9%
平成16年3月	94.7%	0.3%	1.0%	1.2%	0.4%	0.3%	0.5%	1.5%
平成26年3月	95.1%	0.2%	1.4%	1.4%	0.8%	0.1%	0.4%	0.7%
平成31年3月	94.4%	0.2%	1.9%	1.5%	0.8%	0.2%	0.3%	0.6%
令和6年3月	91.8%	0.3%	4.4%	1.4%	0.9%	0.2%	0.3%	0.7%

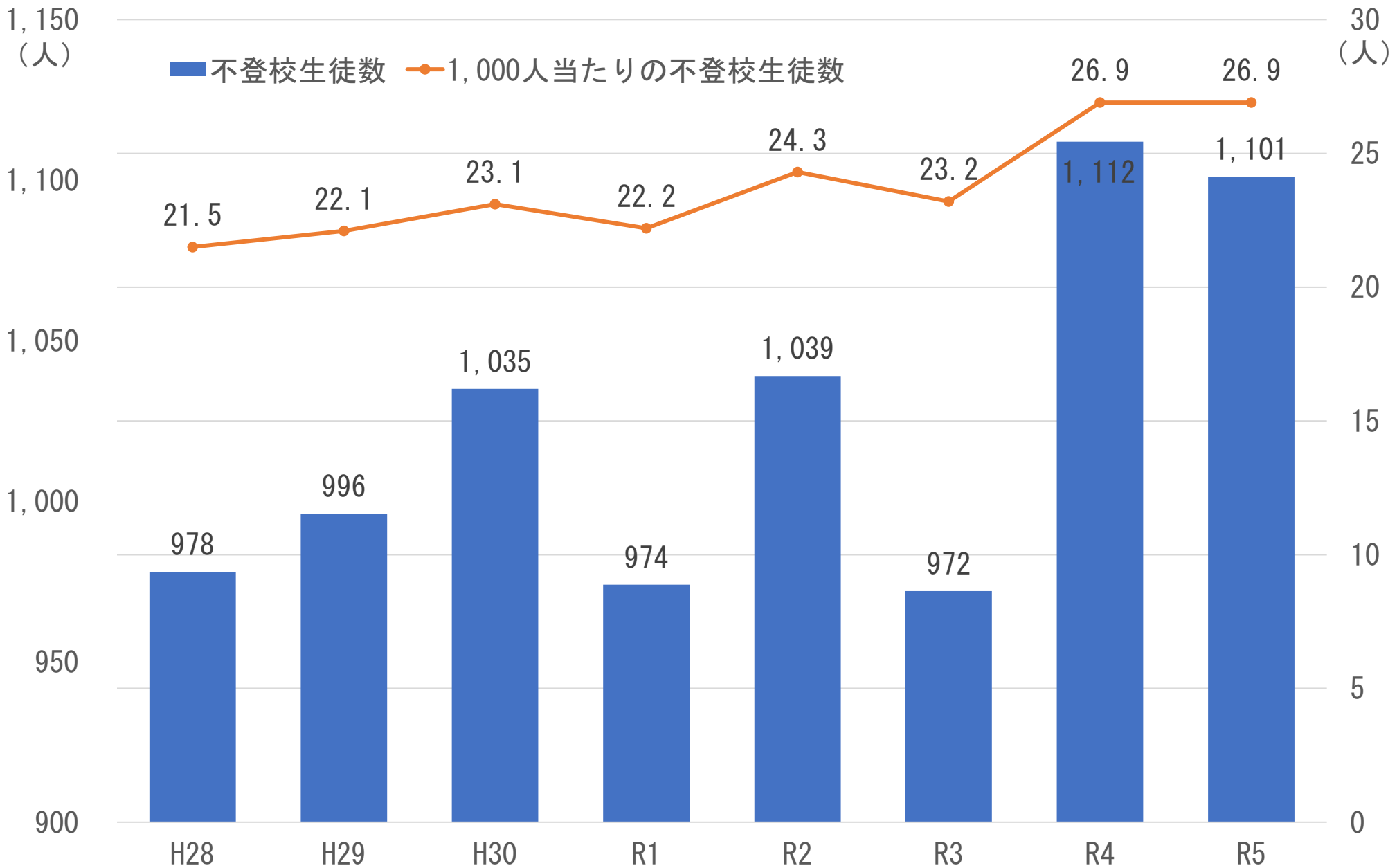
県内小・中学生の理由別長期欠席者数の推移（国公私立）

（出典）「学校基本調査」



県内高校生の不登校生徒数の推移（公私立）

（出典）「学校基本調査」



定時制の状況（公立） 《上段：令和6年，下段：平成16年》

（出典）「学校基本調査」

県	全日制 学校数	定時制 学校数	全日制・定時制 併置学校数	①定時制 学校数合計	②中学校等 卒者数	③ ②／①	定時制 生徒数
福岡県	84 (101)	5 (4)	15 (23)	20 (27)	47,242 (53,242)	2362.1 (1971.9)	3,426 (3,822)
佐賀県	29 (31)	— (—)	6 (7)	6 (7)	8,092 (10,482)	1348.7 (1497.4)	164 (618)
長崎県	49 (59)	2 (2)	6 (6)	8 (8)	11,915 (18,029)	1489.4 (2253.6)	575 (1,701)
熊本県	44 (54)	— (—)	8 (9)	8 (9)	16,352 (21,362)	2044.0 (2373.6)	366 (790)
大分県	36 (49)	1 (1)	3 (5)	4 (6)	10,025 (12,872)	2506.3 (2145.3)	564 (421)
宮崎県	31 (38)	2 (2)	3 (3)	5 (5)	10,187 (13,680)	2037.4 (2736.0)	465 (997)
鹿児島県	66 (80)	— (—)	2 (2)	2 (2)	15,368 (21,264)	7684.0 (10632.0)	130 (350)
沖縄県	52 (53)	1 (1)	6 (8)	7 (9)	16,744 (18,471)	2392.0 (2052.3)	834 (2,503)

県	通信制学校数	通信制協力校数	通信制生徒数
福岡県	1 (1)	— (—)	1,727 (2,286)
佐賀県	1 (1)	— (1)	804 (1,930)
長崎県	2 (2)	4 (4)	1,014 (3,529)
熊本県	1 (1)	4 (7)	1,042 (2,940)
大分県	1 (1)	— (4)	1,195 (2,175)
宮崎県	2 (2)	6 (7)	1,167 (3,063)
鹿児島県	1 (1)	14 (14)	2,127 (2,126)
沖縄県	2 (1)	3 (3)	1,233 (1,812)

「学びの多様化学校」の設置状況（令和6年度まで）

設置場所	学校名	形態	教育課程の主な内容
神奈川県	星槎高等学校 (令和2年)	本校	「個別の指導計画」を作成し、一人一人の特性に応じた支援を行うとともに、学校設定教科「星槎の時間」「SST」「労作」を設定し、社会で活躍する基礎力の養成を目指す。
兵庫県	生野学園高等学校 (令和6年)	本校	履修学年を特定しない学校指定科目を設定し、個々の生徒の状況により選択できるようにする。全寮制を実施しており、寮生活での人との関わりを通して主体的により良く生きていこうとする気持ちを持った者を対象としている。
鹿児島県	鹿児島城西高等学校 (平成18年)	コース	「産業社会と人間」，「進路研究（自己理解）」等を学校設定科目として設け、不登校状態がそれぞれ異なる個々の生徒に、きめ細かな指導と弾力性を持った教育を提供する。
東京都	NHK学園高等学校 (平成20年)	コース	「生活実習」や「職業技術科目」等により、実習・体験型の学習による達成経験の積み重ねなどを通じて、生徒の社会性や自立性の育成、活動意欲や学習意欲の向上を促す。
大阪府	精華高等学校 (令和6年)	コース	科目数を少なくし、1科目当たりの単位数を増やすことで各科目の年間指導計画を各生徒に合わせて工夫することを可能とし、生徒個々の実態に即して学習出来るように配慮した教育課程を編成する。
岡山県	岡山県美作高等学校 (令和6年)	コース	五感を使った体験・研究・発表等を通じて自らを高め、コミュニケーション能力や他者への思いやり、社会的・職業的自立に必要な力等を身につけさせることを目的とする「プレみまうボ」，「みまうボ」，「サクラボ」を学校設定科目として行う。

※ 学校種別設置状況（令和6年度まで）：小学校8校，中学校25校，高等学校6校

「学びの多様化学校」の設置状況（令和7年度設置）

設置場所	学校名	形態	教育課程の主な内容
北海道	星槎国際高等学校	コース	義務教育段階において十分な学習機会を得ることなく修了した生徒が、社会活動する際に必要となる基礎学力・基礎体力の定着を図るため、「ベーシック数学」「ベーシック国語」「健康科学（体育に対する苦手意識が強い不登校生徒に対して、楽しさや心地よさを味わう体づくり運動や、現在におけるスポーツの意義や価値を学ぶ体育理論を1年時に通常より多く学ぶことによって2年次以降の体育への意欲を高める。）」などの学校設定科目を設置。
秋田県	秋田修英高等学校	コース	将来、社会に出て周囲と協調しながら自己実現していくためのソーシャルスキルを身に付ける「体験的な学び」、中学校と高校の授業の橋渡しとなるよう、基礎的な学力を身に付ける「学び直し」、場面に応じた適切な言語を用いて進んで表現することによって、社会生活を充実させる態度を育てる「既存教科」の3つの観点から学校設定科目を設置。
福岡県	福岡海星女子学院高等学校	コース	専門知識と経験の豊富な各教科・教員による新設科目（例：「公共（2単位）」、「家庭基礎（2単位）」を合科⇒「ソーシャルデザイン（4単位）」とする。「家庭基礎」における「個人（私）」と、「公共」における「社会（公）」の視点から相互に関係性を理解することで、教科横断的な学びを提供。）を中心に、体験活動を取り入れ、生徒が主体的に学ぼうと思える環境を設定。
福岡県	福岡県立小郡高等学校（公立）	コース	不登校生徒に配慮した学校設定教科・科目として、1. 小学校・中学校の基礎・基本からの学び直しの基礎科目、2. 進路希望や習熟度に対応した科目、3. 体験的・協働的な学びを取り入れた総合的な探究の時間、4. コミュニケーションスキルやソーシャルスキルの育成、学部研究や企業研究を取り入れた進路研究、5. 始業時に1日の計画を立てる時間を、授業終了後に1日を振り返る時間などを設定。
福岡県	慶成高等学校	コース	中学校時の不登校により義務教育段階での学習の遅れが想定され、特に、主要教科（国語・数学・英語）は基礎知識がないと高校での科目の内容の理解が難しいため、小・中学校の学習内容を1年次にしっかりと復習できる学校設定科目「国語基礎・数学基礎・英語基礎」を開設し、学び直しをした上で、高校の内容の授業を履修。

※ 学校種別設置状況（令和7年度）：小学校12校，中学校40校，高等学校11校

本県における高等学校への進学率は約99%に達し、生徒それぞれの入学動機や進路希望、興味・関心や背景にある生活環境などが非常に多様なものとなっている。

また、少子化等の影響により、県立高校61校のうち34校は1学年3学級以下の小規模校となっている。更に、少子化は今後も進行し、令和15年3月の中学校等卒業予定者数は13,240人となり、令和6年と比べて約2,100人の減少が見込まれている。

このような状況を踏まえ、**生徒の多様な学びのニーズや生徒数の減少に対応するため、今後の望ましい県立高校の教育の在り方等について、検討を依頼する。**

《 検 討 事 項 》

- 1 生徒の多様な学びのニーズへの対応
 - ・ 不登校生徒の学習機会の確保について
 - ・ 全ての生徒の学びの充実について
- 2 生徒数減少への対応
 - ・ 少子化が加速する地域における高校教育の在り方について
 - ・ 生徒が行きたいと思える学校づくり、特色化・魅力化について